

— 1. 支部長挨拶 —

(社) 日本気象学会北海道支部 支部長 中井 公太  
(札幌管区気象台長)

この度、大島支部長の後任として、第27期の支部長を担当させていただくことになりました中井でございます。北海道支部の発展のため、精一杯努力したいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



今年の北海道は春先の涼しさもどこへやら、6月に入って一転して暑い日が多くなりました。6月下旬には帯広市で今年全国初の猛暑日となるなど、7月以降も暑い日が続き、この夏の北海道は記録的な高温となりました。この状態は本州でも同じで、全国各地で毎日のように猛暑日となり、テレビでも熱中症により大勢の方が病院へ搬送されるなどのニュースが、連日報道されました。

また、6月後半は梅雨前線の活動が活発になり、7月中旬には梅雨前線は本州付近から日本海まで北上し、南から非常に暖かく湿った空気が流れ込んで、東・西日本では記録的な大雨となったところがありました。この雨により、九州や中国・東海地方を中心に浸水害や土砂災害などが発生し、土砂崩れなどにより20名余りの方が犠牲となってしまいましたし、北海道でも8月23～24日の寒冷前線による大雨の影響で2名の方が亡くなりました。

大気科学は、地球環境問題や地域における防災対策など、私たちの社会生活と密接な関わりあいを持つ重要な学問分野です。こうした様々な気象現象の発生を契機として、その原因を解明し防災に役立てることへの社会的要求が高まっており、私たちには、研究者としてあるいは防災を担う者として、基礎研究の推進や、その成果を取り入れた防災施策の実施等、様々な立場から国民の皆様の安全・安心に寄与するとともに、そのために必要な知識の普及がより一層求められていると思います。

このような状況を踏まえて、昨年12月には網走市において網走地方気象台創立120周年を記念した地球温暖化に関する講演会を共催し、また、本年7月末には札幌市青少年科学館と共に第28回気象講座「新しい気象」を開催しました。私どもは、これからも一般市民の方々を対象とした事業や、研究発表会などを開催する予定です。このような多くの事業や研究発表会などを通じて、市民の皆様に広く大気科学への興味を深めていただき、我々の研究成果の普及を推進することを目指したいと考えております。

日本気象学会北海道支部では、大気科学の発展につながる施策や教育現場における人材の発掘、研究環境の整備や情報の共有などのために、さらに幅広い活動を行えるよう努力して参りますので、今後とも会員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。